

金融と IT の融合進む

株式会社日本総合研究所 副理事長 翁 百合

「フィンテック」とは、金融と IT の融合を表す言葉である。スマホでの決済の進展など、欧米銀行のリテール（小口業務）や決済業務は IT により加速度的に便利に変化している。昨年、米大手の JP モルガンチェース銀行最高経営責任者のダイモン氏は、「われわれ銀行は、今後グーグルや、フェースブックなどの企業と競合することになるだろう」と発言した。実際、米銀行の IT 投資の 5 割強は、ビジネスモデルなどの変化への投資であり、2000 年代以降多くの銀行は決済分野を中心とした IT 技術の取り込みを目的にベンチャーへの出資や買収を活発化させている。ビッグデータ、人工知能といった技術革新が産業界の構造を変えている今、銀行業もその成長には IT への攻めの投資によって変革をしないと生き延びていけないという危機意識を持つに至った。

日本の銀行はこの流れに立ち遅れている。銀行業の保守的な姿勢もあるかもしれないが、業務範囲規制が諸外国と比較するとやや柔軟性に欠ける仕組みとなっており、技術革新のスピードについていけなくなっていることもその原因ではないか。もちろん銀行は公共

性が高い以上、IT との融合といっても、利用者のトラブルを招かないこと、リスクの大きいビジネスに乗り出して銀行の健全性に影響を及ぼさないことが大事である。

銀行の決済ビジネス高度化は、利用者の利便性向上や企業活動の活性化に結びつく。決済の高度化に結びつく新しいビジネスを手掛けたい意欲的な銀行が出現したら、リスク遮断措置や利用者保護に配慮しつつチャレンジできるようにすべきである。技術革新の動きは早い。そうした動きと統合的な銀行規制の在り方を日本でも考えていく必要がある。

2015 年 7 月 13 日